

「重症下肢虚血の感染と虚血を如何に制御して救肢するか？」

北播磨総合医療センター形成外科・重症虚血趾センター 藤井 美樹

この度は第47回日本創傷治癒学会学術集会において研究奨励賞という名誉ある賞を頂き大変光栄に存じます。学術集会会長の鈴木茂彦先生、選考委員会の先生方、ご指導頂いた神戸大学形成外科教授、寺師浩人先生に深く感謝致します。

糖尿病性足潰瘍、重症下肢虚血に対する様々な研究が行われていますが、未だ解明されていない事が多くあります。その中で我々は骨髓炎に注目し、MRIが骨髓炎の局在を同定するのに有用であるが、虚血肢では血行再建後のMRIで評価すべき事を報告しました。本研究は2015年の国際ガイドラインで日本人として唯一、拙著論文が掲載されました(IWDGF Guidance 2015)。次にMRI診断に基づく足趾切断方法を提唱し、今回の発表では骨髓炎を合併した重症下肢虚血を救肢するために必要な感染と虚血の具体的制御方法を示しました。

同様の問題をかかえるアジア諸国の中で、日本が主導的立場で糖尿病性足病変の治療を進展させる上でも重要な研究であると思考しております。今回の研究奨励賞を励みとし、本研究をさらに進展させ下肢救済に貢献していく所存です。

microRNA-223 発現制御は 黄色ブドウ球菌感染創の改善に有効である

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 病理学 森 亮一

このたび、第47回日本創傷治癒学会研究奨励賞を賜りましたことは、身に余る光栄であるとともに、身の引き締まる思いでもあります。受賞対象となりました「miR-223 機能解析とその応用：miR-223 発現制御は黄色ブドウ球菌感染創の改善に有効である」は、約10年間取り組んでいる研究テーマです。具体的には、創傷治癒過程における分子機序解明を基盤として、治癒促進・瘢痕減弱効果を有する薬剤開発を試みた研究内容です。

本研究は、当時非常に希であった次世代シーケンサーを用いて解析し、炎症依存的に発現誘導される miRNA として、miR-223 を同定したことから始まりました。その後、遺伝子改変マウス作製や生体イメージング解析などの先端技術を用いて発展させてきました。受賞により、これまでの苦勞が報われた気持ちとなりました。

今回の受賞は、長崎大学医学部病理学のスタッフを中心とした、私を支えて下さる先生のお力添えによるものです。この場をお借りして心より感謝申し上げます。また、日本創傷治癒学会の諸先生には、今後ともご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます、感謝の言葉とさせていただきます。



NEWS
LETTER

日本創傷治癒学会

2018.3
No.104

●日本創傷治癒学会事務局

〒160-8582

東京都新宿区信濃町35

慶應義塾大学

医学部形成外科学教室内

tel.03-3351-4774

fax.03-3352-1054

e-mail: info@jswh.com

URL : <http://www.jswh.com>

Hydrocellular foam dressing は leptin シグナルを介して創傷治癒を促進する

東京農業大学応用生物科学部 生体環境解析学研究室 山根 拓実

この度は第47回日本創傷治癒学会において、研究奨励賞を頂き、大変光栄に存じます。選考委員ならびに関係の先生方に心より御礼申し上げます。また、現所属の東京農業大学・生体環境解析学研究室の先生方や創傷研究の基礎を御指導賜りました真田弘美教授をはじめとする東京大学の先生方には感謝申し上げます。Hydrocellular foam dressing (HCF)は多量の滲出液を保持し、治癒を促進するため、臨床現場では広く使用されておりますが、その分子メカニズムは不明でした。我々は、元々摂食をコントロールするホルモンとして同定されたレプチンがHCFによる治癒促進効果の一端を担っていることを分子レベルで解明しました。HCFは滲出液中のレプチン濃度を増加させ、皮膚線維芽細胞の増殖を促進することや創部でのレプチン受容体の発現を増加させることを明らかにしました。今後も分子生物学的手法を駆使し、基礎研究と臨床研究の架け橋となれるような研究を発展させていきたいと考えており、先生方には一層のご指導・ご鞭撻をいただきますようお願い申し上げます。

一般社団法人日本創傷治癒学会 平成30年度

2017年11月27日開催の平成30年度社員総会(評議員会)における決議にて承認された新メンバー3名(*印)を含む以下の評議員67名が、学会のさらなる発展のために尽力することとなりました。

会員の皆様にはますますのご支援・ご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

*青木 茂久	赤坂 喜清	秋田 定伯	秋野 公造	朝戸 裕貴
荒牧 典子	石田 裕子	市岡 滋	井上 肇	猪股 雅史
大島 秀男	大慈 弥裕之	大西 清	大野 真司	岡崎 悌之
岡部 圭介	小川 郁	小川 令	加藤 広行	菅野 恵美
貴志 和生	北川 雄光	北野 正剛	木山 輝郎	*桐木 園子
清川 兼輔	楠本 健司	近藤 稔和	紺家 千津子	雑賀 司珠也
佐藤 道夫	真田 弘美	佐野 仁美	島田 光生	白石 憲男
調 憲	須釜 淳子	鈴木 茂彦	高木 元	高見 佳宏
*竹内 裕也	武田 啓	武田 利明	館 正弘	田中 秀子
田中 里佳	田畑 泰彦	寺師 浩人	土佐 泰祥	仲上 豪二郎
中谷 壽男	中村 哲也	西本 聡	百束 比古	松崎 恭一
松村 一	水野 博司	峰松 健夫	宮澤 光男	宮本 正章
森 亮一	守永 圭吾	森本 尚樹	吉田 昌	吉村 陽子
四谷 淳子	和田 則仁			

(敬称略・五十音順)

WRRに会員の論文が掲載されました

会員の論文がWound Repair and RegenerationのVolume25 Issue No.5に掲載されました。論文名、会員の著者は下記の通りです。

投稿規程に関しましては、Wiley Online Libraryの本ジャーナルホームページの右側にあるナビゲーションバーより、<JOURNAL MENU> ⇒ <FOR CONTRIBUTORS> ⇒ <Author Guidelines>をクリックいただくか、以下のURL先を直接検索窓にコピー＆ペーストして入手ください。

[http://onlinelibrary.wiley.com/journal/10.1111/\(ISSN\)1524-475X/homepage/ForAuthors.html](http://onlinelibrary.wiley.com/journal/10.1111/(ISSN)1524-475X/homepage/ForAuthors.html)

なお、投稿方法については、円滑な審査を行うために、2004年度よりオンライン投稿を推奨しております。

“Consensus guidelines for the identification and treatment of biofilms in chronic non-healing wounds”, (Wound Repair and Regeneration, 25:5, P.744 – 757)

館 正弘 先生 (東北大学医学系研究科 形成外科)

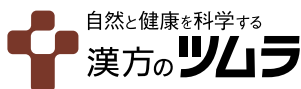
“Invariant NKT cells promote skin wound healing by preventing a prolonged neutrophilic inflammatory response”, (Wound Repair and Regeneration, 25:5, P.805 – 815)

丹野 寛大 先生 (東北大学医学系研究科 形成外科学分野)

菅野 恵美 先生 (東北大学大学院医学系研究科 保健学専攻)

館 正弘 先生 (東北大学医学系研究科 形成外科)

漢方医学と西洋医学の融合により 世界で類のない最高の医療提供に貢献します



<http://www.tsumura.co.jp/>

●お問い合わせは、お客様相談窓口まで。

【医療関係者の皆様】Tel.0120-329-970 【患者様・一般のお客様】Tel.0120-329-930

(2017年2月制作) PPCAB02-K ©